

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている			
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・前月と同様に、アジア系観光客の消費により、コンビニエンスストアやドラッグストア、ラーメン店などでは売上が微増している。ただ、そのほかの店舗では変化がみられない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・前年は消費税増税前の駆け込み需要があったため、3月は前年比で相当な落ち込みになるとみられたが、実際には前年の85%程度で推移するなど、見込みより減少幅が小さいことから、消費が持ち直している様子がうかがえる。外国人観光客の入込は春節後も順調に推移しており、好調が続いている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数が前年比93%となっている一方で、催事等の売上が前年比90%台半ばをキープしている。担当売場の売上は、前年の消費税増税前の駆け込み需要に負けてしまうが、定価品の売上の前年比がセール品の売上の前年比を上回っていることから、新しい商材に対する客の購買意欲が感じられる。また、外国人による売上は前年を4倍程度上回る状況が継続している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年3月は消費税増税前の駆け込み需要による売上げがあったため、今年の売上は前年比79%と大きく落ち込んでいる。また、販売点数も前年比85%と依然として低迷が続いている。ただ、3か月前との比較ではやや良くなっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・商品単価、客単価とも上昇している。最寄品や付加価値の高い商材の動きが良い。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・株価の上昇、外国人観光客の増加など、明るいニュースが増えたことにより、消費も活発化している。
		コンビニ（オーナー）	それ以外	・中国人観光客が増加していることでやや良くなっている。また、雪解けが早かったため、地元客の人出も多々みられる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・雪解けにともない、客が安心して街に出てくるようになっている。ガソリンや灯油の価格が安定していることに加えて、入学、卒業、転職などの移動が生じる季節となったことで、消費も上向き傾向となっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3月については、周りの店舗などもまずまずの台数が売れていることから、全体的に景気回復に向かっている。
		乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・時期的なこともあるが、週末のイベントや毎年恒例の中古車のイベントの状況をみると、例年にないほど、新卒の客が多くみられることから、就職環境の良さが感じられる。新型車効果も少しずつ浸透してきているようであり、客の動きがやや活発になってきている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今年の道東は雪が多かったこともあり、売上は減っているが、暖かくなるにつれて、人出が多くなってきている。これから4月に向けて、ますます人の動きが多くなるため、それにとまって一時的に景気は良くなる。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・売上の良い店と悪い店は確かにあるが、客が少しずつ街に出てくるようになっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国、台湾からの観光目的の客の利用が好調である。映画撮影スタッフの長期滞在もプラス要因となっている。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3月上旬に荒天による航空機の欠航があったが、全体としては観光需要、ビジネス需要ともに堅調に推移している。また、首都圏に入国した台湾、香港などからの観光客が羽田空港発の道内路線を利用するケースが前年よりも増加している。	
	通信会社（社員）	お客様の様子	・決して客の所得が改善されているわけではないが、節約疲れなのか、貯蓄を切り崩しているのかは分からないが、今年になり、多少高額な商材であっても買う客が増えてきている。	

	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3月26日時点の利用乗降客数が前年比119.2%となっており、3月に入っても利用乗降客が伸び続けている。実数では2000年代前半の平均的な数字まで回復しており、景気回復が継続している。
	美容室（経営者）	単価の動き	・前年よりも客単価が3%程度上昇しており、これまでの価格重視から内容重視に変わってきている兆候が出てきている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・卒入学需要があったため、やや良くなっている。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・今の景気はあまり良くないが、全般的に株高の影響で徐々にムードが良くなっている。
	住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・春先という季節要因かもしれないが、客の動きがやや活発になってきている。分譲マンションのモデルルームに来訪する客の商談にかかる時間が短くなってきており、商談も契約に向けて前向きな内容が増えてきている。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応をみても前月と変わらない。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・春めいた陽気のなか、来街者が徐々に増加しているが、春休み中の学生など、若年層によるカラオケを始めとした遊興目的の来街が多く、買物袋を携行している客は前年と比較して少ない。また、管外からの観光客も比較的多くみられるが、荷物を持たず軽装であることから、散策程度の外出であることがうかがえ、買物をしたとしてもバッグに入れることができるような小物が中心とみられる。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・現状、当地域において目玉となるものがないなかで、航空路線の減少などの影響もあり、来客数が減少している。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・3月前半は天候が悪く、線路沿いの崖崩れの影響で交通が乱れたため、観光客が当地に来ることができなくなるといった特殊要因があった。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・ここ2～3か月、単価の高い商材の動きが良く、3月も同様の傾向が続いている。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・3月上旬の季節はずれの大雪や強風の影響により、来客数が減少した。その後も肌寒い日が続き、暖かくなったのが下旬に入ってからであったため、コート、ジャケットを含めた春物の売上は前年比90%前後となっている。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・来客数はほぼ前年並みを維持しているが、客単価が前年から5%低下しており、客1人当たりの平均買上点数も前年から3～4%減少して推移している。ただ、3月は、前年に消費税増税前の駆け込み需要が発生した月であるため、景気の方向性までは把握できていない。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・3月は、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動もあり、前年と比べて売上が大きく減少している。来客数は天候にも恵まれ、回復傾向となっている。生鮮品は順調に売れているが、たばこや酒などの免許品や飲料水などの保存品の販売量は減少している。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・高額商材の動きが悪い。
	衣料品専門店（店員）	単価の動き	・客単価が低いままである。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・1人用の家電セットが例年どおり動いているものの、必要最低限しか揃えない客が多い。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・若年層の来店が少なく、購入も少ない。若年層の購買力、購買意欲がもっと出てこなければ、景気回復の兆しを感じられない。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量の前年比をみても改善がみられず、他社の動向も同じように推移している。
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・車検入庫が増え、工賃も上がっているものの、来客数が前年並みで推移しており、今年に入っても景気が変わっていない。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・前年の3月は消費税増税前の最後の月であったため、前年との比較はナンセンスだが、明らかな買い控えが起きており、景気の低迷が実感できる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格の下落後、石油製品価格が安定しているものの、需要が回復傾向にあるとはいえない。

	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・春休みになり、天候の良い日が続いていることから、家族連れや客や団体客が目立つ。前年4月からの消費税増税にともない、売上が前年を下回る月が続いていたが、2月に続いて3月も前年比8%増と前年を上回った。
	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・前年の消費税増税が、景気が上向きかけたところで行われたこともあり、その後、増税の影響がじわじわと響いており、悪化に転じてきている状況にある。
	旅行代理店(従業員)	それ以外	・先行受注は前年よりも動きが良いものの、間際の動きが悪いため、全体としては変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・1~2月はスキー場への送迎など、特に外国人客の利用が好調であったが、3月に入り、例年にないほど、気温の高い日が続いたこともあり、利用が減少してきている。売上の前年比も気が付けば3か月前と同程度となっている。
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・通信機器の大幅な割引販売により、札幌圏などの都市圏を中心に販売量が大きく伸びているものの、利益を上げきれないため、全体としては変わらない。
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・天候不順の影響から、例年と比較して欠航回数が増えている。公共工事による需要も横ばいとなっている。
やや悪くなっている	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・前年は3月末に消費税増税前の駆け込み需要があり、宝飾品や時計、ブランド品などの高額商材を中心に売上が拡大したが、今年は前年の反動から来客数、客単価、購買率などのすべてにおいてマイナスとなっている。
	スーパー(企画担当)	販売量の動き	・数か月前と比較して、来客数は前年の水準まで回復してきているが、前年の夏場以降、買上点数の低下傾向が続いており、消費税増税後の買い控えの影響が出てきている。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・前年は消費税増税前で、たばこや酒類などのまとめ買いが発生していたため、前年比でみると売上は大きく減少している。来客数は回復傾向にあるものの、前年の水準まで戻りきっていない。売上の上がる山もあるが、その山が低くなっている。
	コンビニ(店長)	単価の動き	・3月は、売上が前年比98%、来客数が前年比102%、客単価が前年比96%となっている。客単価ダウンの主要因として、前年の消費税増税前の駆け込み需要が挙げられる。特にたばこは、前年の売上増加分をカバーできなかった。
	高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・穏やかな陽気の日が続いたことで、前月よりもランチの来客数が増えたものの、売上は前年を下回り、やや悪かった。歓送迎会は、当店の単価設定が5,000円以上と高めなこともあり、伸びなかった。低価格帯の飲食店はグループ客で繁盛したようであるが、単価設定がフリードリンク付きで3,000円台であり、当店で太刀打ちできない。4月に統一地方選を控えているため、経営者の顧客は選挙の2~3週間前から、足が遠のいている。外国人観光客は、市内や観光地ですいぶん姿を見かけたが、当店ではメニューやホームページが外国語対応していないため、ほとんど縁がなかった。
	観光型ホテル(役員)	来客数の動き	・冬季観光シーズンが終わり、特に外国人の来客が減少している。また、例年であれば、湯治客の増加する時期であるが、バス料金の価格高騰にともない、湯治客が大幅に減少しており、売上減少につながっている。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・客の来店が少ない。卒業旅行などの学生の旅行も少なくなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・例年、3月は年末の12月に次いでタクシー利用が多く、売上の良い月であるが、今年は暖かい日が多く、雪の日が少ないなど、天候が良かったため、タクシー利用が大幅に減っている。売上も前年を大きく下回っており、ここ数年では前年比の低下幅が最も大きい月となった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・3か月前と比較すると、タクシーの売上が約15%も落ち込んでいる。暖かい冬で雪が少なかったことが原因の1つであるが、前年実績と比較しても約5%の落ち込みであったことから、やや悪くなっている。

		タクシー運転手	販売量の動き	・ハイヤー、タクシー業界の動きとして、前年を下回る収入状況となっている。
	悪くなっている	百貨店（販売促進担当）	それ以外	・前年3月は消費税増税の直前の月であったため、駆け込み需要がおう盛で売上も伸びたが、今年はその反動により、前年好調だった高額商材が苦戦している。また、近隣に大型商業施設が新規オープンしたことで、開店景気のおおりも受けている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数について回復の動きがなかなかみられないため、本格的な景気回復がまだ遅れている状況にある。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・設備投資を加速させる動きがみられる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年度の動きが良過ぎたこともあり、前年の10月ごろから急激に建設需要が落ち込んでいたが、3月になり少し盛り返してきている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・年度末を迎えて、大型案件の納入は一段落したが、客先である鉄骨加工業者の仕仕事量が安定して見込まれているため、金属加工機械工具、溶接機、溶接材料等の販売量が増えつつある。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注状況は2～3か月前と比べて特に変わりがない。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大企業、大都市以外では好景気とはいええない状況が続いている。また、高額商材を除けば需要はむしろ停滞しつつある。
		建設業（従業員）	それ以外	・当社が関与する建築工事の神事件数を、年度末で完了する竣工式と年度初めで着工する起工式で比較すると、竣工式が圧倒的に多い。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事の工事量も相応にあるものの、競争が厳しくなっている。一方、民間建築工事の引き合いは、引き続き堅調に推移している。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・道内の生乳生産量は4か月連続で前年を上回っており、それにともないバター、粉乳の在庫が微増している。一方、新聞用紙の生産量は引き続き低迷している。
		金融業（企画担当）	それ以外	・建設業は公共工事に一服感がある。住宅着工も消費税増税の影響が残り、持家が落ち込むなど、低水準が続く。個人消費はガソリンや灯油の価格が低下しているが、身近な食品や日用品の価格が値上がりしており、節約志向が強まっている。一方、外国人観光客の大幅増加により、土産品メーカーは好調である。
		司法書士	取引先の様子	・当地域は季節的にまだ冬季という感覚が強く、取引先によっては前年よりも多くの受注が見込まれているものの、今後も前年を上回る受注ができるかどうか、見通しが立たない状態にある。税制などの今後の動向が需要を左右することになる。
		司法書士	取引先の様子	・住宅の新築、土地の取引ともに減少もしくは横ばい傾向であるため、当地においては景気回復の実感がない。消費者も積極的に土地を購入し、建物を建築するような状況にはない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・客先の設備投資意欲は低調なままであり、必要最低限の設備投資にとどまっている。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・月ベースでみると、受注の前年割れが続いている。
	やや悪くなっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・国内の動向からみると、道内の需給は依然として弱く、停滞感が残っている。本来、流通するはずの見込注文による製品が港置場で滞留しており、在庫過多によるメーカーでの供給調整、流通各社の注文控えと悪循環が続いている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者が減ってきているため、仕事が増えてきている状況にある。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 歓送迎会や観光客の増加などにより、落ち着いた飲食店の求人が増えており、前年よりも増加傾向にある。そのほか、生活関連サービスやスーパーなどの個人消費関連業界の動きも堅調である。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 求人数の増加傾向が続いており、新規求人数は前年から5.2%の増加となり、15か月連続での増加となっている。月間有効求人数も前年から0.9%の増加となり、24か月連続での増加となっている。
	学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・ 海外からの観光客が相変わらず好調に推移していることから、ホテルやドラッグストア、家電量販店などは好調に推移している。その一方で、製造業や卸売業は横ばいが続いている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ 求人数は増加基調で推移しているものの、3か月前と比べると大きな変化はみられない。ただ、営業の求人が増えており、景気を底支えている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・ 業種や職種によっては、求人のリピート依頼が多く、人材不足による求人及び求職の構造的なミスマッチが続いている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 求人広告件数を前年と比べると、広告数が微減している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 新規求人数は前年から4.6%増加し、61か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から6.7%増加し、61か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・ 2月の新規求人数は前年を9.4%上回った。新規求職者数は前年を1.0%下回った。月間有効求人倍率は0.92倍となり、前年の0.88倍を0.04ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は43.7%と相変わらず低く、求人者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 全体的に求人数は増えているが、増加している産業と減少している産業の両方があるため、景気が上向きか下向きかの判断までは付かない。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・ 募集広告の売上が、前年比マイナス15%と大きく落ち込んだ。売上規模が最も大きい医療は前年から6%ほど伸びたが、派遣、土建、小売、飲食がそれぞれ前年から15～55%の大幅減となり、全体の足を引っ張った。小売、飲食の大幅な落ち込みは、消費税増税から1年が過ぎても地方における消費が戻っていないことの象徴ともいえる。
悪くなっている	-	-	-